

令和5年度 第3学年 授業改善推進プラン

台東区立蔵前小学校

1 児童の状況及び実態

算数	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで問題に取り組んでおり、間違いを直して最後まできちんと取り組む姿勢が見られるようになってきた。 ・量感が養われていない児童が多い。 ・文章問題の題意を正しく捉えることができず、正しい立式ができない。 ・単位の変換を理解しておらず、正しく変換できない。 ・四則計算、特にかけ算が身に付いていなかったり、繰り下がり指を使ったりする児童が少なからずいる。 ・計算問題や適応問題には意欲的に取り組むが、自分の考えを書くのが苦手な児童が少なく、考えが書けていても自信がなく説明ができなかったりする児童が少なからずいる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の生長の観察カード等の記入について、記入方法や内容について不十分な児童がいる。 ・身近で実際の植物や昆虫の観察を行う際に、自然の中で多くの種類を比較して継続的に観察するのに適した場所があまりなく、校外学習でもなかなか難しい状況である。しかし、理科の学力向上推進ティーチャーズのフォローのおかげで学級や学年での植物の育成準備での指導がしやすいという有難い面もある。 ・児童たちは、植物や昆虫の成長を教室やオープン（廊下）で継続的に観察できた。 ・自然の事物や現象に進んで関わり、問題を見出し、見通しをもって追究していく学習プロセスを習得させていけるよう、今後、指導の工夫が必要である。

2 各教科の具体的な授業改善

	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○知識及び技能 <ul style="list-style-type: none"> ・長さや時間の量感 ・四則計算の定着 ○思考力・判断力・表現力等 <ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の題意を捉える ○学びに向かう力、人間性等 <ul style="list-style-type: none"> ・最後まで粘り強く、問題に取り組む力 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や廊下などものの長さを測ったり、日常生活を意識させて時間の計算をしたり、身近なものやことから量感を養う。 ・問題集やデジタル教材の利用、必要に応じて個別補習など行い練習を重ねる。 ・問題の場面を図に表したり、「分かっていること」「求めること」を確認してから問題に取り組みせたりするなど、問題の題意を正しく捉えさせる。 ・一人で考える時間を十分に確保し、考えたことを友達と共有したり比較検討したりする。また、友達のノートを自由に見られる時間の確保やヒントカードなど、個別指導などの支援が必要な児童の手だてを講じる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○知識及び技能 <ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験等に関する基本的技能 ○思考力・判断力・表現力等 <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の力 ○学びに向かう力、人間性等 <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に問題解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・器具や機器などを目的に応じて工夫して効果的に扱うとともに、観察、実験の過程や、そこから得られた結果を適切に記録できるようにする。 ・自然の事物、事象に親しむ中で、理科特有の学習プロセスを確実に身につけられるようにする。 興味・関心→学習課題→予想や仮説→観察・実験→結果の整理・まとめ（結論） ・自分自身の学習活動を振り返り、意味づけしたり、身につけた資質・能力を自覚したり、学習内容への理解をより深めたり、新しい問題を見い出したりできるようにする。